

【研究主題】 児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究  
 - SNSの利用による友人関係への影響に着目して -

1 デジタルネイティブ世代の児童生徒の現状と課題

現在の児童生徒は、生まれたときからインターネットが整備されており、知りたい情報をすぐに検索・収集したり、また、遠距離でも様々なやり取りができたたりする社会であったことから、デジタルネイティブ世代と言われる。

本県の「平成28年度 インターネット利用等に関する調査」によると、自分専用の携帯電話の所持率（図1-2）は、中学校以外は減少しているものの、インターネット接続機器の所持率（図1-1）は全体的に年々高まる傾向にある。各学校においては、長時間の利用による生活習慣の乱れや心身の不調などの健康に関する問題、誹謗中傷などのモラル面に関する問題が山積しており、生活指導や情報モラル教育を在り方が大きな課題となっている。また、近年のスマートフォンの普及に伴い、LINEやカカオトークなどの無料通話アプリケーションソフト等のSNSを利用する児童生徒が増加している。特に高校生においては、インターネットの利用でSNSの利用が最も長い時間になっている生徒が4割を超えている状況にあり、日常的にSNSを利用している傾向が高まっていることが読み取れる（図1-3）。

児童生徒の多くが利用するSNSは、数文字から数十文字程度の短い文章を書き込んでリアルタイムにメッセージのやり取りをするテキストチャットである。先行研究では、テキストチャットによるSNSは、顔が見えない相手とリアルタイムに短いメッセージのやり取りをするために、スピーディーなコミュニケーションが求められるため、真意が伝わりにくく、誤解が生じやすいことや感情的になりやすいといった特性が指摘されている。そのため、児童生徒の人間関係づくりの指導・支援において様々な課題が生じていることが考えられる。

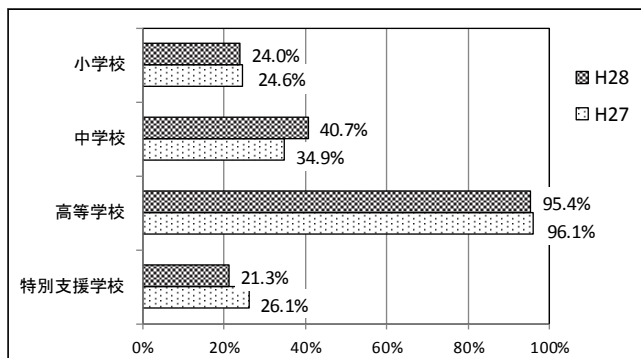


図1-1 自分専用の携帯電話の所持率

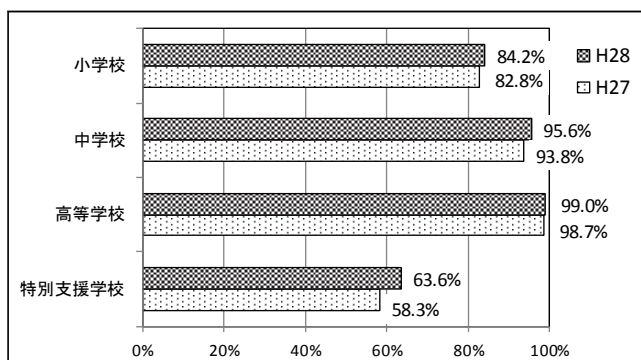


図1-2 インターネット接続機器の所持率

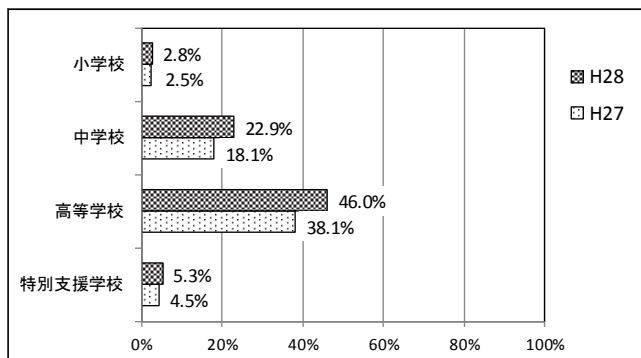


図1-3 インターネットの利用において最も長い時間利用している内容がSNSと回答している割合

## 2 SNS利用における「豊かな人間関係づくり」の重要性

円滑な社会生活を営むためには、適切なコミュニケーション能力や自己表現能力などを基に、互いに価値の共有化を図ったり、互いの存在を理解・尊重し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度が必要である。学校教育においては、集団での活動や生活が基本となるために、学級や学校での児童生徒相互のよりよい人間関係が、児童生徒の健全な成長と深く関わってくる。このことについて、「生徒指導提要」（平成22年3月文部科学省）の「第1章 生徒指導の意義と原理」では、生徒指導の目標について次のように述べている。

自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成していこうとする人間関係づくりとこれを基盤とした豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。

すなわち、児童生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育みながら、自己実現を図っていく「豊かな人間関係づくり」が重要となる。

インターネットが社会に進化したことに伴い、誰もが自分の気持ちや考えをSNSなどで発信しやすくなった。しかし、その一方で、対面で会話することに抵抗を感じるようになったり、他者への思いやりや相手の立場に立って物事を考える態度の希薄さによりSNS上で友達関係が悪化して改善できなかつたりするなど、ソーシャルスキルの不足から希薄化・閉塞化する人間関係が起因し、問題が深刻になりつつあるといった課題が先行研究で指摘されている。したがって、集団での活動を基本とする学校においては、自己の理解や他者と関わる力を身に付けさせるための意識的な取組がこれまで以上に求められている状況にあり、児童生徒のSNS利用を踏まえた「豊かな人間関係づくり」について、積極的な指導・支援の必要性が考えられる。

## 3 本研究のねらいと期待される成果

平成25・26年度の調査研究では、不登校の未然防止や初期対応、そして自立支援における不登校児童生徒への対応には、「児童生徒理解」と「人間関係づくり」が重要であることを明らかにした。そこで、本研究では、これまでの調査研究を基に、SNSを利用する児童生徒の実態を「学校楽しいーと」等から多面的に分析・考察し、SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の組織的・計画的な指導・支援の実現をねらいとした。

本研究の成果として期待されることは次のとおりである。

- SNSの利用状況と「学校楽しいーと」等の結果を考察することで、児童生徒のアセスメント（見立て）を深化させることができるとともに、学校不適応の早期発見や早期対応に生かす知見を明らかにすることができる。
- 「豊かな人間関係づくり」の支援・活動で効果があったアプローチや機を捉えての個別的な対応の在り方についての児童生徒理解を深め、教師の生徒指導力、対応力を向上させることにつながる。
- SNS利用の実態を踏まえて取り組む検証改善サイクルのモデルプランを提案することで、組織的・計画的に指導・支援する体制の充実を図ることができる。